

ECC コンピュータ専門学校 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園 ECC コンピュータ専門学校 学校関係者評価委員会は、2025 年 8 月 29 日に 2024 年度自己評価報告書に基づいて学校関係者評価委員会を開催しましたので以下のとおり報告いたします。

2025 年 9 月 10 日

学 校 法 人 山 口 学 園
ECC コンピュータ専門学校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会

- 1 開催日時：2025 年 8 月 29 日（金）18:30～20:00
- 2 場 所：ECC コンピュータ専門学校（4202 教室）
- 3 参加者：
学校関係者評価委員（「ECC コンピュータ専門学校 学校評価実施規定」選出区分）

【関連業界等関係者「同第 12 条第 1 項（1）」】

伊藤 裕一 氏（インフォームシステム株式会社）【委員長】
野間 伸治 氏（株式会社アコードセブン）

【卒業生「第 12 条第 1 項（2）」】

小橋 勇太 様（ECC コンピュータ専門学校卒業生）
谷 優 様（ECC コンピュータ専門学校卒業生）【都合によりご欠席】

【保護者または地域関係者「第 12 条第 1 項（3）」】

中上 隆雄 氏（済美地域社会福祉協議会 会長）
植村 和弘 氏（ECC コンピュータ専門学校在校生保護者）

【その他校長が必要と認める者「第 12 条第 1 項（4）」】

貴治 康夫 氏（立命館高等学校）

【同席者】

納谷 新治（ECC コンピュータ専門学校 学校長）
伊澤 幸徳（ECC コンピュータ専門学校 副校長・教務課責任者）
池田 宗人（ECC コンピュータ専門学校 キャリアセンター責任者）
月嶋 彦晴（ECC コンピュータ専門学校 入試課責任者）
岸 岳澄（ECC コンピュータ専門学校 広報課）
新古 功二（ECC コンピュータ専門学校 教務課副責任者）
伏浦 幸治（ECC コンピュータ専門学校 教務課副責任者）
北口 愛梨（ECC コンピュータ専門学校 教務課副責任者）
松岡 佑治（ECC コンピュータ専門学校 教務課）【書記】

2024 年度事業報告書、自己評価報告書に基づき概要説明、参加委員様からの意見・質疑応答という形で議事を進行。

2024 年度事業報告書に基づき、以下の点を説明（納谷）、委員からの質疑、及び意見は特になし。

- ・学生募集状況について、専門課程での入学者が増加、特に留学生が好調（IT 業界）。高等部 3 年生 23 名の内 19 名が専門課程に進学。高等課程に 1 期生が入学。
- ・IT カレッジで学習成果が特に出ている。

2024 年度自己評価報告書に基づき説明と質疑応答

基準 1（納谷）：大きな変化はない。希望者全員がゲーム・IT 業界に就職。人間力・社会人基礎力育成がこれまで課題であり、その対策として初年次教育をほぼ全てのコースで導入。

基準 2（納谷）：大きな変化はない。教員採用について必要な人材を確保していく意味で、採用面接を 2 回制に変更し、担当を変更。募集活動は、卒業生、口コミ、転職サイトなどでアプローチしている。

Q：人間力育成について、留学生も同じメニューで実施しているか。

A：初年次教育は 3 年制課程以上で導入している。そこに参加している留学生と一緒に学んでいる。留学生単独の 2 年制課程以下では導入していない。日本語力がまだ低い KE の学生などは、日本の文化や社会を学ぶように指導している。その過程で合同説明会に行くなどして現状を知る。日本語学校を卒業しており、日本の文化をある程度、教科書的に学んでいる。そのうえで、現実の日本社会を学ぶことを、就職活動を通して行っている。

Q：留学生の感想は何かあるか。

A：日本での就職は厳しいというのが学生の感想、その上で日本での就職に向けて学んでいくという姿勢になっている。

基準 3（伊澤）：IT カレッジでコンテスト入賞多数など躍進があった、IoT 部の活動でコンテストに参加し、好成績を得ている。ゲームカレッジ、高等部・高等課程でも入賞。企業連携授業に注力し、33 社のご協力いただいた。国際力では GEA の取組を継続、出場した学生が優良賞を受賞した。学生アンケートの結果では 4.5/5 となっている。学生の構成比率が変化、留学生や通信制高校出身者の増加、多様化が進んでいる。対応方法も変化しており、日々分析しながら対応している。通信制高校出身者向けの入学前オリエンテーションを実施、先輩からの生の声を聞く機会として提供。

Q：留学生が増えているとのことだが、今後高等課程で留学生の受け入れはどうなっていくか。

A：現状、在籍はない。希望があったベースでの対応になっている。保護者が多様なバックグラウンドを持つ方はいる。今後の課題であり、多様なバックグラウンドを持つ生徒は多くなる。家族滞在や定住者などのビザで相対的に日本語力の低い生徒への対応も必要になってくる。

Q：生徒が増えているようで、募集面はあまり困っていない印象はあるか。

A：高校生の数減少、大学進学率が増えているため厳しい。一方で、留学生の希望者は増えている。通信制高校は増えている、加えて中学校はあまり行っていないが高等課程で学びたい生徒も増えている。そういった形で構成が変わりながら動いている。

基準 4（池田・伏浦）：大きな変化はない。就職率 99%。ゲーム会社 73 名、昨年 103 名、業界での難易度が上がっており、中小系で採用が絞られている。IT 業界が活況のためそちらに流れている、結果としてゲーム・IT 業界併せて 90%以上、そういった変化がある。留学生 59 名対象、何とか 100%達成。国際エンジニア専攻ではシステムエンジニアを希望しているが 1/3、1/4 ぐらいが内定。CAD、製造機器のオペレーターなど、技術を活かして就職、建築業界の施工管理などで就職。IT、製造、建築で就職している。

Q：留学生の傾向は今後も変わらない見込みか。

A：日本語力が低下している傾向。そのため、システムエンジニアの割合が下がり、CAD、オペレーター、建築業界が増えていくと思われる。出先のことや指導水準を考えると留学生を極端に増やすことは難しいと考えている。

基準 5（伊澤）：年間退学率 95%目標であったが、93.1%で目標に届かず。経営情報学専攻に転科して、休退学ではなく学内で学びを継続して進路を達成する専攻を運用。ピアポートの活動で 63 名が活動、上級生から下級生への教授支援。学生相談、留学生増加に対応するための体制を強化、出身国の変化、南アジア出身者の増加、経費思弁、国の情勢などのケアが課題となっている。保護者会には 4 割程度が参加、事後アンケートは好評。

基準 6（伊澤）：1 号館を本格的に運用開始した、学生からも好評。フランスの Autograf と提携、交流を実施。

Q：保健室なども 1 号館にあるか。

A：1 号館 2 階に保健室、相談室、社会貢献センターがあります。

Q：以前に課題として挙がっていたネット環境はどうか。

A：依然として評価は厳しい。ただし、性能が劣っているわけではなく、専用線やアクセスポイントを設定、リッチコンテンツの利用

や授業外利用などもあるため、随分この面がある。

Q：授業への影響はあるか。

A：そこまでのレベルではない。調査をしたが、日によって利用規模が大きく変わる。学生のあたりまえ水準が上がっているので、今後も改善を続けていく。

Q：校舎の使い分けはどうなっているか。

A：1号館は壁が可動式になっており、チーム制作・実習で特に利用、グループ座席も設置している。3階が語学専用教室、1階、2階は学生ラウンジ、学生の自習場所として利用している。

Q：高等部・高等課程の行事は何をしたか。

A：専門学生の行事に倣う形で、高等部・高等課程でも運営に参加した。お昼の放送なども実施、学生からの希望で学校責任者に企画プレゼンを行って許可を得た。

基準 7（月嶋・岸・新古・伏浦）：入試課では専門課程・高等課程を併せて対応している。ゲーム分野でも大学検討層が増えてきている。ゲーム関係の学部・学科も増えてきて、選択肢が多様化しており、その影響。高等課程でも 2026 年度募集からゲームだけでなく、IT 分野も設立する。プログラミングに興味がある中学生も増えている。教務・進路・募集の担当が連携して動いている。修学支援新制度の利用者も増えており、正確な情報を伝えるように注意している。通信制高校の増加、一昨年ぐらいから通信制高校へのアプローチを展開、特待生制度の設定などを実施、今後も増えていくという方向性で広報活動を実施。留学生募集ではマンマーが増えている、西日本の幅広い日本語学校から入学。国の情勢もあるが、覚悟をもって熱心に勉強している。

質疑・意見は特になし。

基準 8（納谷）：2024 年 4 月に ECC 学園高校を株式会社 ECC から譲渡を受け、準学校法人から学校法人へ移行した。2025 年 4 月の改正私立学校法施行に向けて会計監査人を設置。指摘事項を受けて、適宜改善対応を行っている。

基準 9（納谷）：改正私立学校法施行に向けて、内部統制（内部監査機能）が強化された。不正アクセス対策強化のためセキュリティソフトの強化、個人情報保護などコンプライアンスの強化を図っている。

Q：学園高校を移管したということか。

A：株式会社立から学校法人立へ変更になった。

Q：セキュリティ強化でシステムが変わったということか。

A：システム自体は変わっていないが、セキュリティ体制を強化、多段階認証やセキュリティソフトの導入などがある。

基準 10（新古・伊澤）：地域イベントのポスター制作を継続している。ボランティア活動への参加では、留学生が積極的に参加している。フランスの Autograf へは 1 月に渡航、学生交流、2025 年度には来訪している。春のキャンドルナイトの司会、済美カーニバルのお店のお手伝いなど地域活動にも参加している。

Q：天候の地域活動の運営への影響は。

A：猛暑で厳しいです。

全体総括（伊藤委員長）

今後、留学生の比率が増えていくイメージを持った。専門学校の教育現場の中で日本人・留学生が共に学んでいく中で、今までのセオリーでは立ち行かなくなる可能性がある。それは企業の現場でも同様だと思うので、次回にまた報告を伺えるのを期待しています。

総括報告（ECC コンピュータ専門学校）

以下は、2025 年 8 月 29 日に開催された学校関係者評価委員会の議事内容を踏まえ、ECC コンピュータ専門学校として今後取り組むべき課題と方向性を、以下の通り総括いたします。

1. 多様化する学生層への対応

- ・留学生や通信制高校出身者など、多様な背景を持つ学生への教育・生活支援体制の強化。
- ・初年次教育の充実、日本語力や文化理解支援の拡充。

2. 教職員体制の質的向上

- ・教員採用プロセスの見直しを継続し、教育力・対応力の高い人材確保を推進。
- ・多様な学生に対応できる教職員の育成と研修の充実。

3. 就職支援の多様化

- ・留学生の就職先の多様化に対応し、業界別支援やキャリア教育の強化。

4. 退学率改善と学内進路支援

- ・退学率改善に向けた転科制度や相談体制の強化。

5. 施設・ICT 環境の改善

- ・ネットワーク環境の継続的改善と学生ニーズに応じた施設整備。

6. 広報・募集活動の戦略的展開

- ・通信制高校・日本語学校へのアプローチ強化と中学生層への情報発信。

7. 法人運営とコンプライアンスの強化

- ・学校法人化に伴う会計監査体制の整備と情報セキュリティの強化。

8. 地域・国際連携の深化

- ・地域イベントや海外提携校との交流活動の継続と拡充。

以上の点を踏まえ、今後の教育活動および学校運営に反映させていただきます。

以上